

# かめの 楽園



まつもとひろし

ある日 縁側に座っていると、右隣の家の方から  
1匹の亀がやって来た。

そして、僕らに気付いたかめは、その場で固まり丸くなった。

んっ？！

庭で植木の手入れをしていたお父さんが、  
嬉しそうな顔をした。

どこから来たのかな？

隣はかめは飼ってないのに、誰のかな？

僕がそうつぶやくと、お父さんはすぐに  
誰のもんでもなか。

わざわざ遠くからうちに来たんやから、うちのかめたい。  
と言った。

どうしようか？

飼おうたいここで。

どうやって？

考えがある。

お父さんはそう言うとうら庭に行った。

しばらくして両手にレンガを抱えて戻ってきた。

どうすっとね？

これで庭を囲む。

放し飼いな！すごか！

さっそくぼくとお父さんは、うら庭から庭を囲むための  
十分なレンガを運んだ。

ぼくは、かめが庭に住んでる光景を想像しながら  
ニヤニヤした。

ふわふわの芝生をノシノシ歩くかめ。  
ぼくは、縁側からエサをあげるんだ。  
かめはうれしそうに駆け寄ってくる。  
ところでなにを食べるんだっけ？！

最後のレンガを置いた。

万里の長城のごたと、お父さんが言った。

完成！

おお完成たい！

よし、亀吉！できたぞう！

いつの間にか名前がついたかめを探す。

あれ!？

かめがおらんよ、お父さん！

なんや、逃げたとや！

そうなのだ。かめは動くのだ。

僕もお父さんもかめは喜んで待っていると思っていた。

こんな心地良い楽園から、かめが逃げるなんて  
これっぽっちも考えなかった。。。

でもこの楽園はかめのものではなかったみたい。

そう、これは、僕とお父さんのための楽園。

あー、楽しかった。

(今からレンガの片付けが待っているけど)

幻のかめよ、どうもありがとう。